

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11521

研究課題名(和文) 専門職開発力を育成する「看護師の学び方を学ぶプログラム」の効果検証

研究課題名(英文) the development and evaluation of "learning to learn for nurses program" among senior year of college students.

研究代表者

三浦 友理子(MIURA, Yuriko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：70709493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は看護系大学4年生に対する「看護師の学び方を学ぶプログラム」を開発し、専門職開発力向上への寄与を評価することを目的とした。プログラム内容は「看護学生と看護職との学び方の違い・新人看護師研修の概要」、「省察の行い方-実践力の課題発見と質改善に向けた改善方法の理解」、「拡張学習の行い方-キャリア開発と学習の場」、「情報収集と統合の方法」、「協働学習の行い方」である。本プログラムによる学習方略使用の重要性認識の変化は、実施前が平均4.5点であり、実施後は平均4.9点と上昇した(5点満点)。特に、「拡張学習の行い方」で上昇率が最も高かった。本プログラム全体への満足度は平均8.7/10点であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門職開発ならびに生涯学習を継続する能力は、看護専門職のコンピテンシーの1つとして位置づけられる。本研究では、抽象的に捉えられてきた「学びを継続する能力」を、具体的に育成するための学習内容と方法を示し、プログラム化した点に学術的意義を有する。また、複雑・高度化する医療において、看護職自身の継続的な専門職開発の実施と組織のサポートが不可欠とされている。本研究で示したこのような学習方法と学習支援方法は、質の高い看護を行う看護職を育成しマンパワーを確保につながる点で、医療への社会的ニーズに応えるものがある。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to develop and evaluate "Learning to Learn for Nurses Program", that promoting competency for professional development. This program consisted of implementation methods of "reflection", "expand learning", "information collection and integration", "collaborative learning" in nursing practice situation. The findings were shown the recognition of the importance of using learning strategies were increased by .4points between the pre-test and the post-test, and satisfaction with the overall program was 8.7 on average.

研究分野：看護教育学

 キーワード：専門職開発 自己調整学習 自己調整学習方略 自律的学習 看護基礎教育 移行期教育 看護教育学
 新卒看護師

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢化、および医療マンパワーの不足等、医療を取り巻く諸課題は山積し、様々な保健医療政策による推進事業が展開されている。これらの課題を改善する糸口として、看護職者には新しくより高度な役割を担うことが期待され、役割の拡大は喫緊の課題となっている。以上のような現状に対応するためには、看護師一人ひとりが高い看護実践能力を有していることが不可欠であり、日々変化していくシステムや知識を自律的に学習し、役割に見合った看護実践能力を継続的に開発していくことが重要視される。

看護実践能力とは、知識や技術を特定の状況や背景の中に統合し倫理的で効果的な看護を行う能力(松谷他, 2010)とされる。看護実践能力を構成する諸要素を分析した研究では、アセスメント力、ケア提供力、およびコミュニケーション力などとならび、専門職開発力や自己研鑽力という自律して学習する能力が必要であることが提示されている(e.g. Cowan et al., 2006)。これは、看護師が日々変化する社会システムの中で、新たな知識や技術を患者への看護実践に積極的に適用するために、既存の能力を刷新していく能動的な学習を継続することが重要視されていることを示唆している。

一方で、看護師が学び続けるためには様々な阻害要因が存在する(e.g. Penz et al., 2007)。また、新卒看護師は学習することに何らかの悩みを抱えており、支援を希求している状況がある(e.g. 大石他, 2009; 高橋他, 2009)。新卒看護師は、看護学生時代の学びと実践での学びの相違を認識しており(三浦, 2009)、看護師としての学び方や学びのプロセスを理解しておく必要性が示唆される。

能動的な学びは、自己教育力、自己決定学習、および自己調整学習という概念によって理解される。自己教育力は看護学研究における使用が多く、自己決定学習とともに能動的な学びを行う個人の特質について述べている。自己調整学習は学びのプロセスにおける当事者の調整である「学びの遂行コントロール」に焦点を当てる。学習者が行う調整や工夫をミクロレベルで捉えた知見であり、学び方を学ぶ本研究の基盤的理論として適している。

自己調整学習は「学びの遂行コントロール」「省察」「予見(再計画)」のフェーズで構成される(Zimmerman et al., 1989)。「学びの遂行コントロール」をうまく駆動させるためには、「モチベーション」_」「メタ認知」_」および「学習方略」を保持または活用することが重要視される(伊藤, 2009)。大学生に「学習方略」および「メタ認知」など学び方をトレーニングするプログラムでは、専門職開発力や学習方略の使用を向上させることが確認されている(e.g. Pintrich et al., 2000)。

本研究計画に先立ち、研究者は看護師における学習方略について研究を行った(三浦, 2011)。これによると、臨床看護師の学習方略の側面には、実践をもとに省察を行うという「省察的学習方略」、役割を獲得するなどより意識的に学習を促進するという「向上志向的学習方略」、人的資源を活用する「協同学習的学習方略」、および適切に情報収集および統合を行う「情報処理方略」が存在することが明らかになった。大学生の学習方略の既存研究では「情報処理方略」が中心的要素であり、看護師は働きながら学ぶ上で多岐にわたる学習方略を駆使していることに特徴があった。看護学生から新人看護師となる際には学びの質的な転換がもたれられており(三浦, 2009)、看護師の学びに内容を適用させた上で専門職開発力を向上させる「学び方を学ぶプログラム」を施行する必要性が認められた。

2. 研究の目的

医療を取り巻く諸課題の改善を目指して看護職の役割が拡大する中、自己研鑽力の基盤をもつ看護職者の輩出は、急増する看護系大学教育に課されたミッションと言える。

本研究は、看護系大学4年次生に「Learning to Learn for Nurses Program(看護師の学び方を学ぶプログラム)」(以下、LLNP)を施行し、専門職開発力向上における効果を検証することを目的とする。このプログラムは、看護師が能動的に学習を継続する際に必要である、「メタ認知」_」「モチベーション」_」およびこれらを活用し学習行動を具現化する「学習方略」の使用について、知識やスキルを獲得することを目標とする。これにより、看護学生から看護職の学びへと質的に転換する専門職開発力について、準備性を高めることができる。

3. 研究の方法

研究デザイン 教育プログラム開発のためのパイロットスタディ

対象者 2019年度看護系大学4年次に在学しており、2020年度4月より病院に看護師として就業予定の3名である。

リクルート方法 首都圏看護系学科にポスター掲示

データ収集方法

データ収集は、看護師の自己調整方略尺度(4下位概念34項目)ならびに看護実践能力尺度(3下位概念15項目)によって行う。測定タイミングは2時点であり、LLNP実施前、実施直後に実施する。看護師の自己調整学習方略尺度: Self-Regulation Learning Strategy for Nurses Scale: SRLSNScaleは、「省察的な学習方略(13項目)」「拡張的な学習方略(9項目)」「学習モニタリング方略(7項目)」「協働的な学習方略(5項目)」の4下位概念からなる、計34項目の5段階のリッカートスケール(5.非常に使用する~1.全く使用しない)である。尺度の妥当性は、確認的因子分析(CFI=0.861, RMSEA=0.062: 構成概念妥当性)、学習

方略尺度（浅野，2009）との関連（ $r=0.68$ ：併存妥当性），看護実践能力との共分散構造分析によるモデル検証（ $CFI=0.869$ ， $RMSEA=0.053$ ：予測妥当性）により確認されている．尺度の信頼性は，Cronbach 係数（ $=0.94$ ，内的整合性），および再テスト法（ $r=0.79$ ）によって提示されている．

さらに、プログラム実施群の中から3名程度にLLNPの実施に対する受講者の有用感と改善点、ならびにプログラム実施方法の良かった点と改善点についてインタビューを行う。

データ分析方法

量的データ

対応のある t 検定にて平均値の比較を行う。

質的データ

KJ法により、内容を分類する。プログラム内容の有用感と改善点、ならびにプログラム実施方法の良かった点と改善点を抽出する。

教育プログラムの内容

日程 2日間（1日5時間、計10時間）

実施場所 A看護大学

実施スケジュール概要

新人看護師の学習プロセスと、看護師の自己調整学習方略の下位概念である4つの方略について学習する。

1. 新人看護師の学習プロセスと新人看護師研修

1) 学習目標

(1) 看護学生と新人看護師の看護や学習の違いを知る

(2) 厚生労働省「新人看護師研修ガイドライン」に示される到達目標を理解する

2) 学習内容・方法

時間	内容	方法
10分	看護学生と新人看護師の看護や学習の違い	レクチャー
5分	厚生労働省「新人看護師研修ガイドライン」が制定された経緯	レクチャー
25分	厚生労働省「新人看護師研修ガイドライン」に示される到達目標	目標の内容を確認し、現在の到達度をチェックする
5分	まとめ	

3) 所要時間 45分

4) 教材 パンフレット 新人看護師研修到達目標チェックリスト

2. 省察的な学習方略

1) 学習目標

(1) 経験した場面について目標を基準に評価することができる

(2) 経験した場面について支援者との省察的対話から評価することができる

(3) 上記の評価から改善策を記載できる

2) 学習内容・方法

省察1（1日目）

時間	内容	方法
10分	省察的な学習方略	レクチャー
15分	3名の患者を日勤の初めての訪室する際の実践を計画する。	省察ワークシートへの計画の記載
5分	シミュレーションサイトの説明	説明
75分	3名の患者を日勤の初めての訪室場面を実践する（10分間で）、シミュレーションの目標に照らして、支援者と対話しながら実践を評価する（5分）。 1サイト5名×15分=75分	シミュレーション 支援者との対話リフレクション
10分	個人で省察ワークシートを記載し、次の課題と改善策を特定する	省察ワークシートへの記載

省察2（2日目）

時間	内容	方法
5分	オリエンテーション	説明
75分	3名の患者を日勤の初めての訪室場面を実践する（10分間で）、シミュレーションの目標に照らして、支援者と対話しながら実践を評価する（5分）。 1サイト5名×15分=75分	シミュレーション 支援者との対話リフレクション
10分	個人で省察ワークシートを記載し、次	ワークシートへの記載

	回の課題と改善策を特定する	
--	---------------	--

- 3)所要時間 省察1 115分 省察2 90分
 4)教材 パンフレット 患者データ
 省察ワークシート(実践計画、シミュレーション評価票・次回の課題と改善策)

3. 拡張的な学習方略

- 1)学習目標
 (1) 拡張学習方略の定義と意義を述べる
 (2) 学びを拡大する際の方略を調べ、そのバリエーションを知る
 2)学習内容・方法

時間	内容	方法
15分	拡張学習方略 学びを拡大することの意義	レクチャー
30分	5つのキャリアパス(専門看護師、看護管理者、看護大学教員、省庁看護技官、海外での医療支援)に求められる学習経験、認定試験、活動の場などを調査する。	2名1組での調査
30分	5名1チームで調査した内容を共有する	グループへの発表
5分	まとめ	

- 3)所要時間 80分
 4)教材 パンフレット 拡張学習ワークシート

4. 学習モニタリング方略(含む情報収集統合)

- 1)学習目標
 (1)自己調整学習の概要を述べる
 (2)自らの学習を対象化する際のモニタリングの視点を述べる
 (3)臨床に用いることが可能な信頼がおける情報源を特定し、情報収集統合を行う
 (4)学習プロセスを振り返り、学習をモニタリングしながら進められていたか評価する
 2)学習内容・方法

時間	内容	方法
15分	自己調整学習とは 学習モニタリング方略	レクチャー
40分	3名の患者を受け持つための情報収集を行い、患者の概要を把握するワークシートを完成させる。	患者の概要を把握するワークシートの記載
15分	学習プロセスの振り返りとまとめ	学習モニタリング評価シートの記載と共有

- 3)所要時間 70分
 4)教材 パンフレット 患者の概要ワークシート 学習モニタリング評価シート

5. 協働的な学習方略

- 1)学習目標
 (1) 協働学習方略の内容を述べる
 (2) 協働作業に向けた自身の傾向を把握する
 (3) 調査を通して協働学習を経験することができる
 2)学習内容・方法

時間	内容	方法
10分	協働学習方略	レクチャー
15分	協働作業に向けた自分の傾向の把握	協同作業認識尺度(長浜他,2009)を用いて自身の傾向を把握する
45分	協働学習の経験	せん妄に有効な看護を調べるという協働学習を行う。
20分	協働学習において自分が担った役割や強み、改善点に関するディスカッション+まとめ	協働学習の4つのポイント(互恵的協力関係・個人の責任の明確化・参加の平等性・活動の同時性)に沿ってディスカッションする。

- 3)所要時間 90分
 4)教材 パンフレット
 協働学習ワークシート(協働作業認識尺度・エビデンス記録シート)

4．研究成果

本研究は、看護系大学4年生に対し「Learning to Learn for Nurses Program (看護師の学び方を学ぶプログラム)」(LLNP)を施行し、専門職開発力向上における効果を検証することを目的としている。

これまでの予備研究により、プログラム内で対象者が学習する内容は、「看護学生と看護職との学び方の違い・新人看護師研修の概要」、「省察の行い方(実践力の課題発見と質改善に向けた改善方法の理解)」、「拡張学習の行い方(キャリア開発と学習の場)」、「情報収集と統合の方法(信頼できる情報の収集、実践への活用可能性を高める統合方法)」、「協同学習の行い方(臨床における知の共有方法)」となった。プログラムでの学習方法は、臨床状況で行われる学習状況や場に基づくデザインとした。プログラムの評価方法は、学習方略使用の重要性認識の変化と、本プログラムの満足度によって評価した。学習方略使用の重要性認識の変化は、看護師の学び方の実施程度を測定する看護師の自己調整学習方略尺度(Self-regulated Learning Strategy Scale for Nurses: SRLSN scale)34項目を用いて、プログラムの実施前後で測定した。本プログラムの満足度に関しては、プログラム全体の満足度を10段階で、また各下位プログラム事の役立ち感を5段階で質問した。さらに自由記載により、本プログラムの改善点等への意見を求めた。

以上の結果、本プログラムによる学習方略使用の重要性認識の変化は、実施前が平均4.5点であり、実施後は平均4.9点と上昇した(5点満点)。特に、「拡張学習の行い方」で上昇率が最も高かった。本プログラム全体への満足度は平均8.7(10点満点)であった。

本研究は、対象者が看護師として就業した後、学習した認識が継続されるのか、継続するための有用な学習支援策を探索していくことが次なる目標となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三浦友理子	4. 巻 15(5)
2. 論文標題 実習につながる思考力を育成する授業デザイン～「情報に気づくトレーニングを行う」「学習の仕方を学ぶ」「技術の適応を考える」授業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護人材教育	6. 最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松谷美和子
2. 発表標題 看護系大学4年生の学修特性と学修成果
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三浦友理子
2. 発表標題 「臨床判断モデル」を用いた教授方法の検討
3. 学会等名 日本看護学教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三浦友理子
2. 発表標題 看護系大学生の自律的学習に関連する要因の検討
3. 学会等名 第35回日本看護科学学会学術大会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	桑本 暢子 (大久保暢子) (KUWAMOTO Nobuko) (20327977)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授 (32633)	
研究 分担者	松谷 美和子 (MATSUTANI Miwako) (60103587)	国際医療福祉大学・成田看護学部・教授 (32206)	